

〜春です〜

新春の桜はすっかり葉桜となり、あたりは春の気配いっぱいです。

みなさんも、歩道脇で可憐に咲くスミレや野の花に気がつくでしょう。そんな小さな花々は、昔から私たちの生活に身近な存在だったというお話を、町民のみなさんから伺うことができま



①ハルノノゲシ



②オニタビラコ

たとえば、写真①のハルノノ

ゲシ（方言名マーオーファ）や写真②オニタビラコ（方言名トウイヌヒサー）は、野菜として食べられていたそうです。このほか、**ホンバワタン**（方言名ンジャナ）は、ジュースやシンジムン（精進料理）などに利用されています。また、**オオバコ**（方言名ヒラクサ）は、食用以外に、できものの傷口に貼るなど、薬用としても利用されたようです。

また、写真③の**ルリハコベ**（方言名ミンナ）は、家畜のエサに利用される一方、ササ（魚毒）としても使われていました。

まず、ルリハコベの汁を河川へ流し入れます。すると、その毒で魚が麻痺し、動きが鈍くなったところを捕まえるのだそうです。しかし、家畜のエサにもなるなんて、いったいどんな毒なんでしょうね。

このほかにも、いろんな利用法を持つ身近な植物はたくさんありますが、それはまた今後紹介していきたいと思いまーす。



③ルリハコベ